

看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた

地域のまちづくり事業

—平成25年度—

理念・目的

- ・看護学生が予防的な家庭訪問を通じて、地域に住む高齢者の健康や生活を学ぶ。
- ・高齢者が自立して自宅で暮らすことができるよう、機能低下予防対策を実践し、高齢者の健康をとおして、地域の再生・活性化に寄与する。
- ・看護学生が家庭訪問を通じて、世代や学年を超えた支え合いの大切さを学ぶ。

対象地域

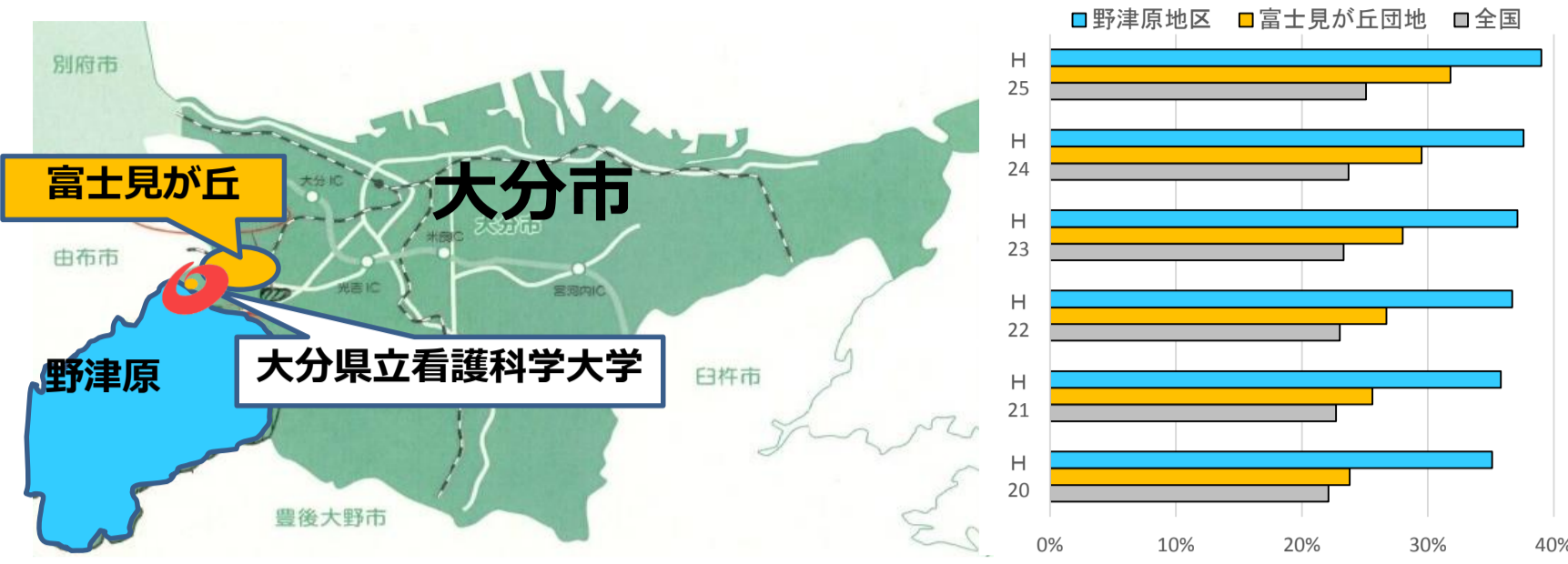


図3. 野津原地区

図4. 富士見が丘団地

野津原地区と富士見が丘団地の高齢者の共通課題

- ▶ 孤立しがちな高齢者への対策
- ▶ キメ細かいアウトリーチ(家庭訪問)の必要性

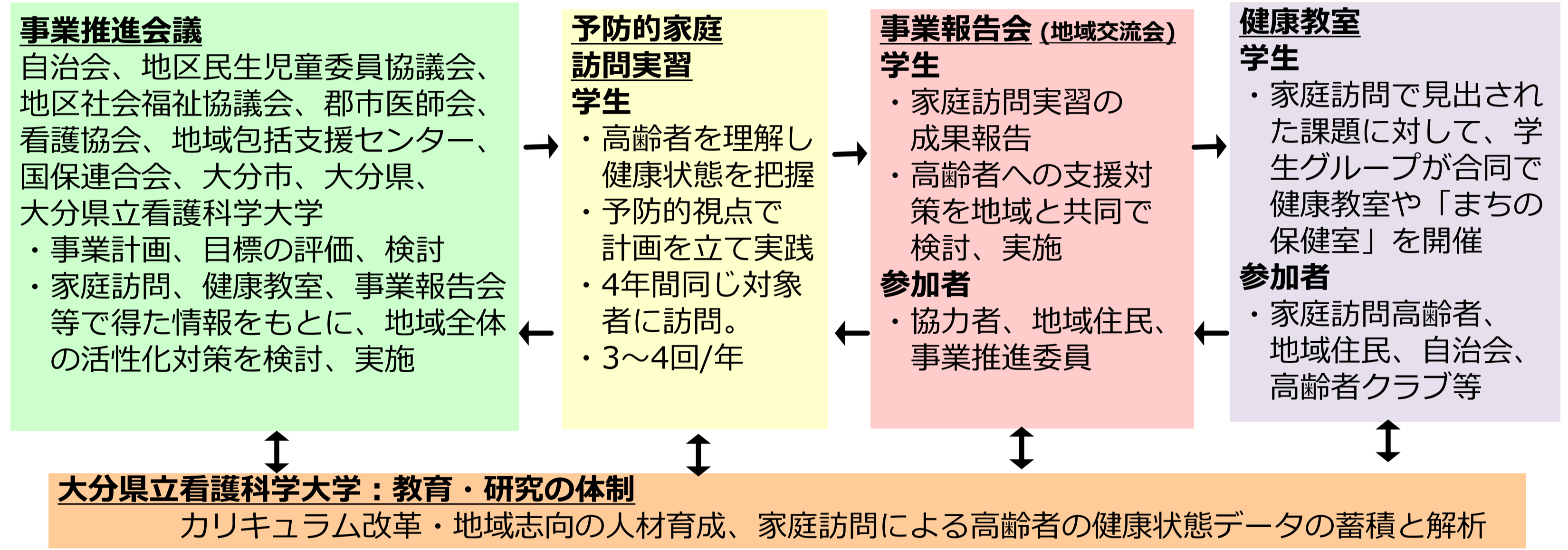
図1. 野津原地区・富士見が丘団地

図2. 65歳以上高齢者の割合の推移

方法・対象者

学生が、野津原地区と富士見が丘団地の地域の75歳以上の方に、4年間かけて、定期的かつ継続的に家庭訪問を実施する。

事業全体の枠組み



成果

事業推進会議 於：大分県立看護科学大学

1. 第1回事業推進会議 (図5)

- 1) 実施日：平成25年10月15日(火)
- 2) 出席者：30名 (関係機関17名・大学教職員13名)
- 3) 内容：事業概要、家庭訪問対象者、地域への事業周知、事業の推進方法



図5. 大分合同新聞 平成25年11月1日 夕刊掲載

2. 第2回事業推進会議

- 1) 実施日：平成26年2月18日(火)
- 2) 出席者：38名(関係機関21名・教職員17名)
- 3) 内容：平成25年度事業報告、平成26年度事業計画、協力者の募集方法、平成25年度の訪問や事業報告会、地域住民の反応と改善点

予防的家庭訪問実習 —テスト訪問—

1. 予防的家庭訪問実習(図6)

- 1) 実施日：平成25年12月18日(水) 平成25年12月19日(木)
- 2) 協力者数：2名(野津原地区：1名、富士見が丘団地：1名)
- 3) 学生数：4名 (2年生1名、3年生2名、4年生1名)
- 4) 教員：3名



図6. 家庭訪問風景

学生：「健康な高齢者に予防的な視点でかかわれるのは家庭訪問のいいところだと思った」
 「病院実習での退院指導では、実際の生活のイメージができなかったが生活をしている高齢者を知ることによって、退院指導が具体的になると思う」
 「地域とかかわりを持てるのが嬉しいし、面白い」
 「4年生の考えを聞くことで勉強になるし、自分に活かせる、学年を超えた縦のつながりができる」
 「上級生として、責任感が出てくる」

事業報告会(地域交流会)

1. 野津原地区(図7)

- 1) 実施日：平成26年2月3日(月)
- 2) 場所：野津原支所
- 3) 参加人数：10名(関係機関6名・学生1名・教員3名)



図7. 事業報告会(野津原地区)

2. 富士見が丘団地(図8)

- 1) 実施日：平成26年1月22日(水)
- 2) 場所：富士見が丘公民館
- 3) 参加人数：20名 (地域住民5名・関係機関6名・学生2名・教職員7名)



図8. 事業報告会(富士見が丘団地)

3. 事業報告会(地域交流会)の内容(富士見が丘団地)

予防的家庭訪問実習の説明、学生の学び、訪問協力者の感想、意見交換

協力者：「若い人が来ると孫が来るようで嬉しい」
 「戦時中の話など昔話を若い子が知らないのて話してあげたい。今までこのような機会がなかった」
 「2~3か月に1回の訪問のペースでいいと思う。年寄りには楽しみに待つ」

大分県立看護科学大学 教育・研究の体制

1. 教育体制：異なる学年(1-4年生)の4-5名で1つのグループを構成する(図9)。

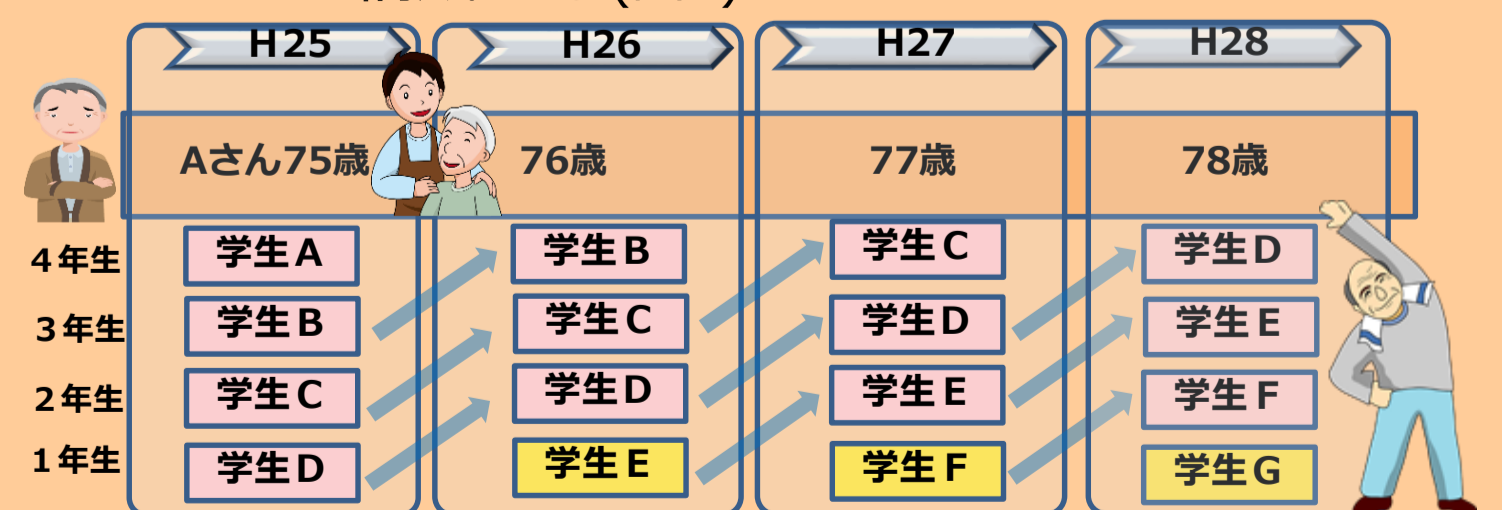


図9. 4年間の実習グループ構成

2. 研究体制：

地域看護学の研究者であるKathy Magilvy博士(コロラド大学名誉教授)と、本実習の対象地域へ出向き、地域住民にインタビューを実施。アドバイスを受けた(図10)。



図10. 対象地域の地区踏査、インタビュー風景